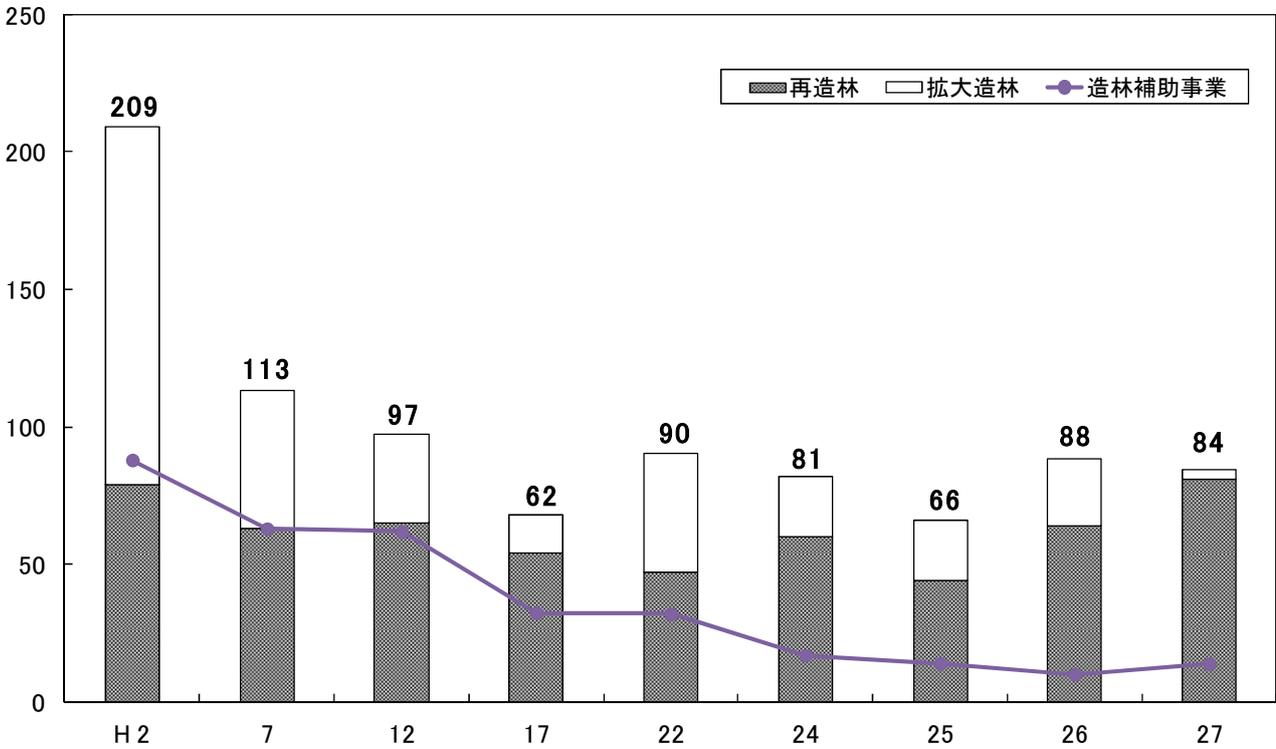


## 2. 森林の整備

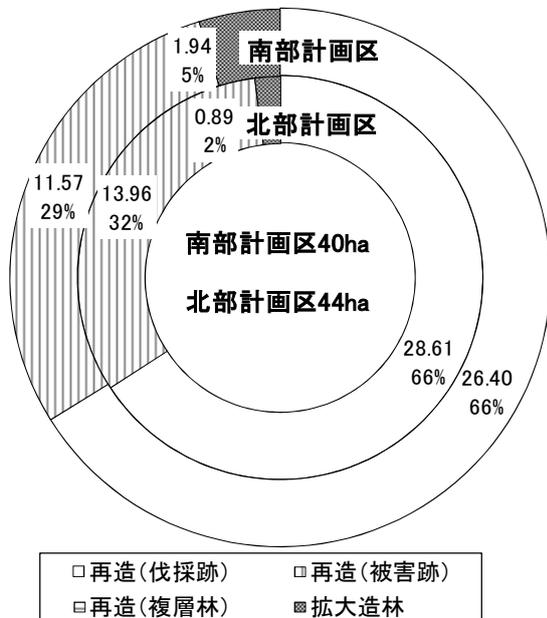
### (1) 人工造林

—造林面積は低調—

面積(ha)



造林種別人工造林面積地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成17年度まで大幅に減少した後、90ha台まで増加し、25年度まで再び減少したが、26年度から増加し、27年度は約84haとなった。

しかしながら、その内、補助造林面積は約14haであり、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は約17%となっている。

造林種別の内訳は、被害林跡地への再造林が前年度より17ha増加し約81haとなっており、拡大造林は減少し約3haとなっている。

27年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より16ha減の約44haとなっており、再造林が約43haとそのほとんどを占めている。

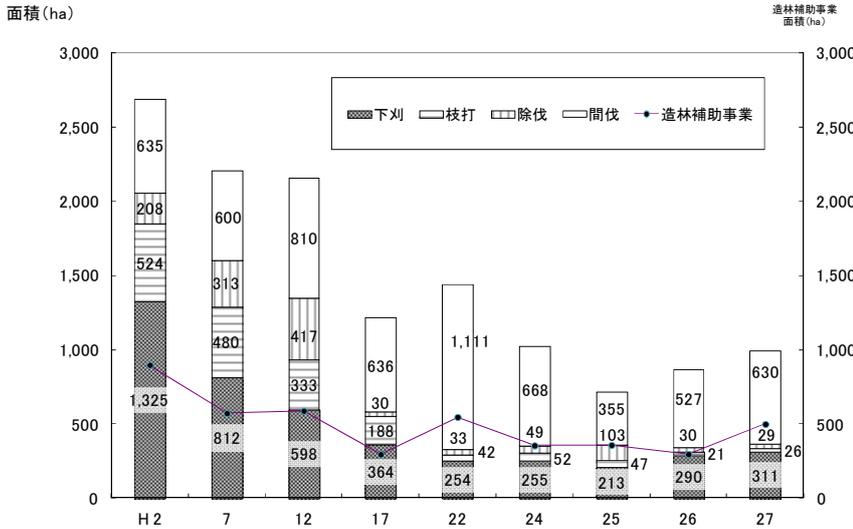
一方、南部計画区は前年度より12ha増の約40haであり、再造林が約38haと北部計画区と同様にほとんどを占めている。

造林樹種別の面積構成は、スギが24%(20ha)、ヒノキ17%(14ha)、マツ36%(30ha)、広葉樹24%(20ha)となっており、前年度に比べヒノキの割合が約9%・マツが約10%増加するのに対し、広葉樹は約11%・スギは約7%減少している。

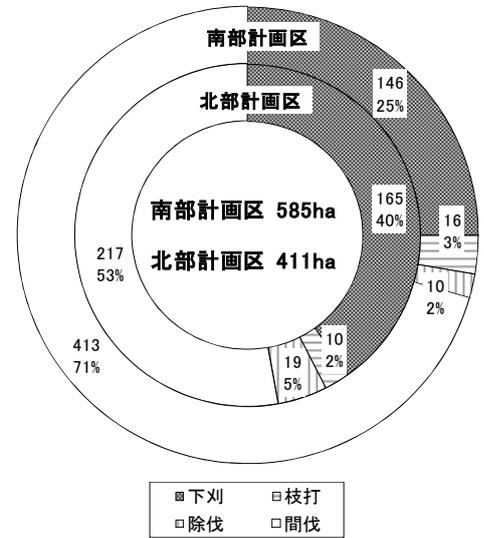
## (2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積は上昇傾向—

### 間伐・保育面積の推移

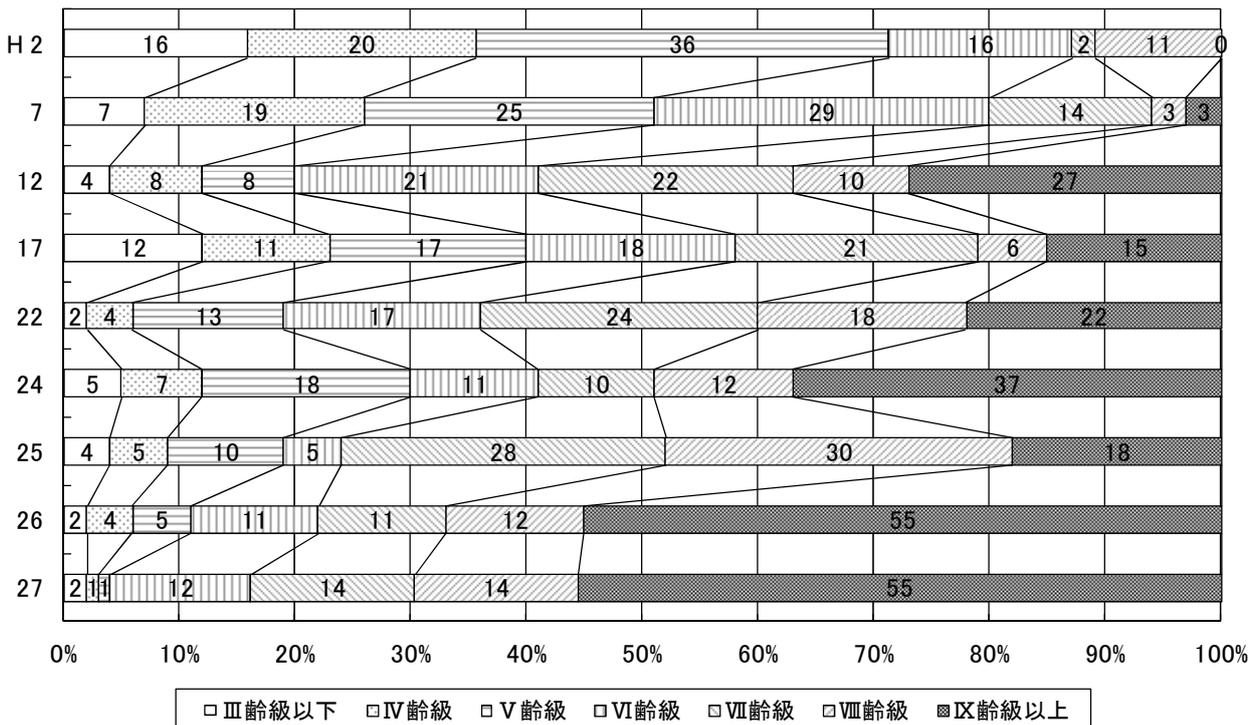


### 地域別間伐・保育面積 (ha)



単位: %

### 間伐の齢級構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、17年度まで大幅に減少した後、21年度に1,473haまで回復したが、再び25年度に減少した。しかしながら、26・27年度と微増ながら増加傾向を示している。

27年度については、前年度から126ha増加の996haとなった。種類別には、除間伐が前年度から101ha増加し658ha、下刈は21ha増加の311haとなり、間伐及び保育全体で増加した状況となった。

地域別傾向としては、北部計画区では前年度から150ha増加し411haとなり、南部計画区でも前年度から8ha増加し585haとなっている。種類別内訳については、北部計画区が間伐約53%・下刈約40%に対して、南部計画区では間伐71%・下刈25%となっている。

間伐実施面積の構成を齢級別にみると、27年度は前年度と同様にIX 齢級以上の割合が約55%となり、VIII 齢級以上で見ると間伐全体の約69%を占めるなど高齢級化が進行している。